

編集後記

分子研レターズ前号（54号）をお読みになっていた方には既にお気付きのことではありますが、これまでの分子研レターズの長所や特徴を踏まえた上で、前号から内容・装丁共に大幅な刷新を行っております。本号はその第二弾とも言えるべきものです。分子研OB、更には分子科学コミュニティーの方々との開かれた情報交換の場を提供すべく、編集委員一丸となって企画・編集した形が本号でもご覧いただけたかと思えます。少し距離をおいた形で大所高所から分子科学研究所に対するご意見を頂く「巻頭言」のページから始まり、今回大森編集委員長の発案で始めた「座談会記事」、研究に関する報告、そして今回も総研大に纏わる記事を少なからず掲載し、その他多くの内容を取り込んだものとなっております。特に今述べました座談会は、私が知る限りここ最近の分子研レターズでは新しい試みです。今回は分子科学研究所顧問の三人の先生方に、非常にお忙しいところお時間を割いていただき、正に貴重なご意見をお伺いできました。ご意見の中にはもちろん我々にとって厳しい内容も含まれていたのですが、この先の分子科学研究所、更には分子科学の発展のためにお伺いした叱咤激励全てを真摯に受け止めたいと思っております。先生方にはあらためて編集委員一同お礼申し上げます。

前号出版に際して、内容・装丁刷新に関する編集会議を長時間行ったとは言え、まだまだ試行錯誤の段階であるために今回も昼食を挟んでの長丁場の編集会議を開催しました。今回は不肖ながら私が編集担当をさせて頂いたのですが、何かと不備な点を露呈してしまい、他の編集委員の方々にお手数をお掛けすることになってしまいました。また、編集作業の都合上執筆者の方々には短期間での原稿執筆をお願いすることになってしまったことをお詫びさせていただくと共に、今回の原稿執筆のお礼を申し上げます。最後になりましたが、本号でも大森編集委員長と分子研広報の原田さんには多大なご尽力を頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。

本号編集担当 信定克幸